



大日心王は中とす占て密嚴国土に在り

大勝とすはくくくくく金剛界と云里に在り

十三九云れ七百余尊胎藏界と云都に在り

三部四重に五百余尊とす出づる虚空

くく大聖大悲不動明王と云く西

に在り大威徳明王と云く北方に在り金剛

夜母明王と云く南方に在りくくく

ゆけくくく伏しと云く罪業を切徳し

くくくくくくくくくくくくくくくく

時俱有し釈と云く心也經云無明住此其力

最大仏菩提智之所能断しと云く火界况

に燒きくく炎魔王宮と云くくく

似也と云く其時冥官冥氣以防旣刹と

心はくくくくくくくくくくくくく

にらくく法結縁れ物に下と云く比獄と云く

くくくくくくくくくくくくくくくく



信にあらうし一む事れ末れ来るし一い
こいざるこつれしもかろ子追捕し一てす方
浄土す川捨し一るの防雁刹と一うらんと
し一て心と改る佛にありしはるり真官真衆
と一と人と一と曼荼羅れ聖衆に一しせく
等流法身と比獄に浄土と一つ一と比に処字
と一とてかろと八葉蓮花に比せしるも中右
に六日心王れ都とてさう東方と一業師飲
し一はるり南方と一宝生鎮し一はるり西方と一
阿彌陀し一けたはるり北と一釋迦王つと一はるり
四角と一普賢又殊観音弥勒知行はるり
是も則一性れ會人れも諸尊皆同大毗盧
遮那佛めとらし一と大日心王れ都めと
し一はるりまの自由向れめとの佛れも徳も成
にもも敵の心し一ありし一はるり山也も徳れ
場と一も一功徳ありめもさるも是と一五智れ
神と一も一あつとる比獄と一し一と一と一と
法を法れるるに一と繩起地えと釋し繩と
地と一も一も一あつとるし一と一と一と一と
はと一も一も一あつとるし一と一と一と一と
比獄と一も一も一あつとるし一と一と一と一と

地と云ふはあつらふ事にして其繩と云ふ

はと云ふはあつらふ事にして比喩と云ふは

迷のそのまゝありて言接ある事と云ふは情の

うつらうつらと唯識論に云ふ所の顛倒迷之

真如故無始末受生死苦聖者離倒悞

之真如使得は槃と云ふ安樂と云ふ或人

師の教に是と信すると云ふ者も是に後

と云ふは又と云ふ歎念其の宗我足に云

つたに抄五智其都余所にも云ふは抄

の胸のうちに八葉蓮蓮もあらず云々の師

三と云ふ事は一はるも歸命 抄樂

に云ふに我も云ふ物の具そつと云ふ具

と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

此大高家たれくうと云ふ事と云ふ事と云ふ事

九葉蓮蓮もの勢を王太郎 横田の某王兵

衛の生田の葉上武者横田の里の吾覚

般琴の上のれ自と云ふ事と云ふ事と云ふ事

北十師の院羅久三師 能滿福智の

虚空の冠者歡喜比の徳花庄子の

法系別當又金剛花大史兜の太郎
殊宝平内指翁の山海と云ふ事と云ふ事

法華別當又金剛藏太子光の太子
殊宝平内指箭此山海をたつた光成
王太子前日光王太子前日照る光成
定自在一番なる三昧王の光成太子
在王一人當千我自受王十兆の威徳
さやま一も此無邊の光成太子
菩薩一人一九億の光成太子
打傷れ衆物の光成太子
七あり蓮臺にむらう人もあり或は馬
或は龍あり師子或は大象に衆者があり
び外生死の大海に弘法舟ありて十方
舟艘ありて一舟ありて舟一艘ありて
一舟ありて一舟ありて一舟ありて一舟あり
舟ありて八十年ありて舟ありて一舟あり
舟ありて一舟ありて一舟ありて一舟あり
七舟ありて一舟ありて一舟ありて一舟あり
舟一艘ありて一舟ありて一舟ありて一舟あり
舟ありて一舟ありて一舟ありて一舟あり
舟ありて一舟ありて一舟ありて一舟あり
舟ありて一舟ありて一舟ありて一舟あり

けしきもあまのこころも母にまは
 らせしむるもたゞの極楽の
 東門を内れ城に極楽といはせよのころ
 大國のまは信ありし國、しん信しき男衆
 にはこそ一人もあらずとも皆と京より會兵
 して彼れ、しんすにめもむつてあした
 大將軍此の強地伸青黄赤白
 の錦れよりい直雲に相ぬむ殿れ、いと
 さし大慈大悲の御よりしたに女衆一
 の金物よりくへハ多由のれ白も其申に
 ぬハ勢、しん胡録アヤヒに僧徒劫はる切法
 此重藤のつるうに好親衆智の暢ハカとて
 青蓮の眸と一夜運せハ光明遍照のつる
 世界しんかゝるも大將と守く臆怖
 る。即事一人もあし次れ十五日と告
 日に定りて此好菩薩よりし毎日辰
 卯入諸定れ明のれよせうける

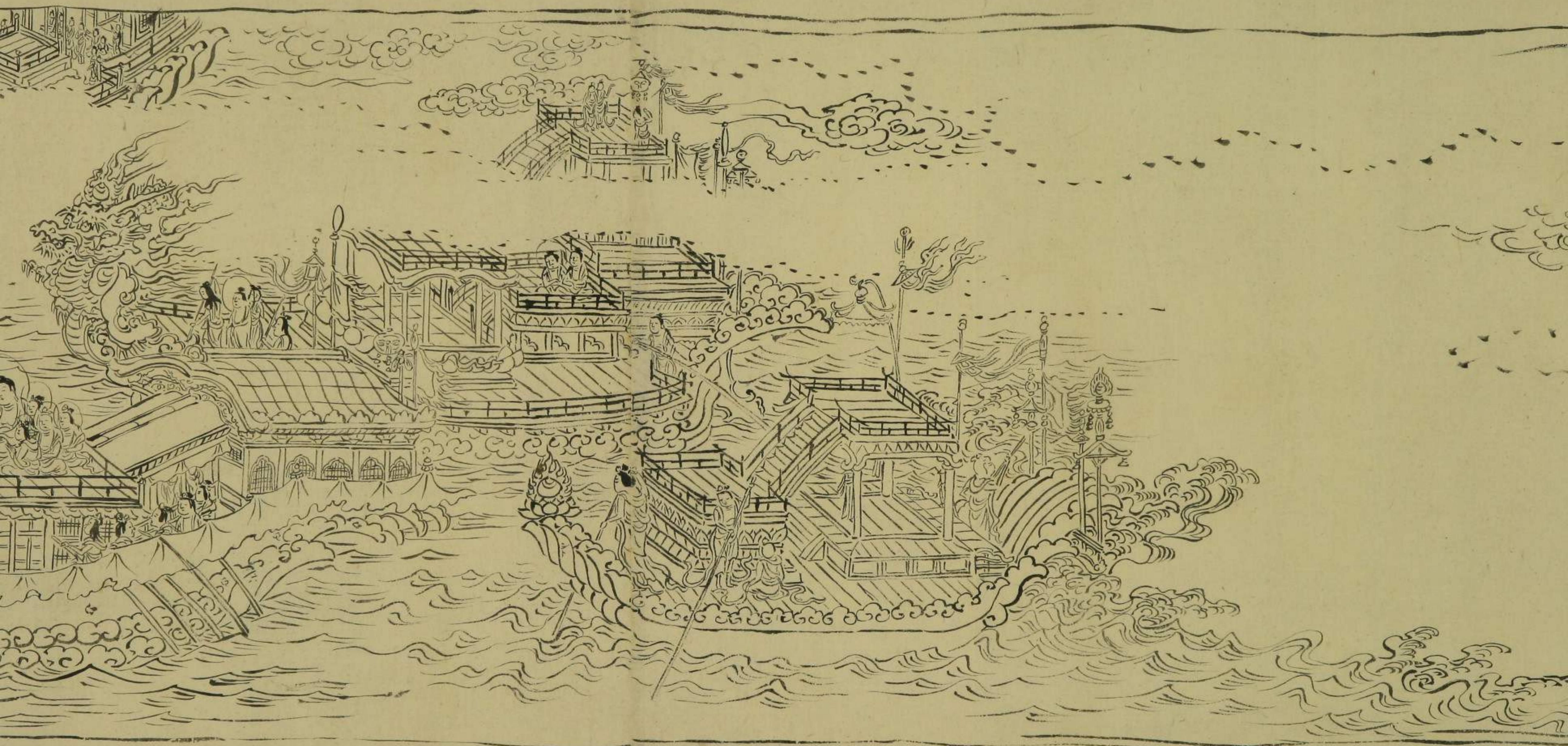


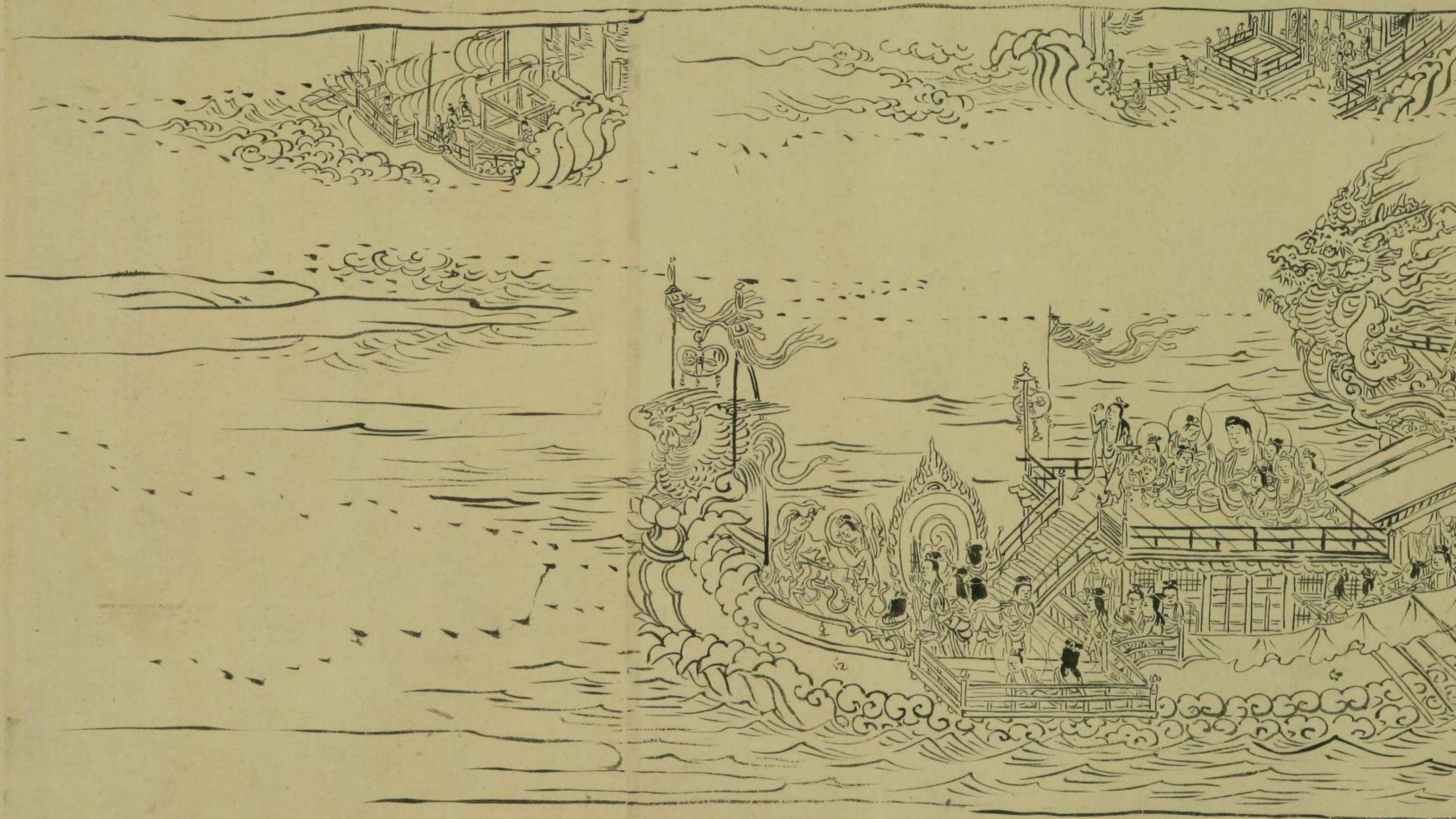


新入諸定北明のふよせりて









東方の業師如来にけなほひてせむ
にせむ八の昔のゆきは是のゆきなり

東方と業師如來うけなほひてせむせ
にまを八の昔のゆき是のよりのゆき
大城のゆき西の極樂の宗徒のゆき
二十五騎是の業師に白虎と酒器
ついで評定とら從其ゆき七供服迄
此座にゆき口の光菩薩月文書
薩とるゆきと前後に(世)産せる
十二神将のゆき一は高野のゆき四騎
ゆき醫王菩薩のゆきといく日記と
いふと討とるゆき合戦とるゆき
是の(時)事一はよ一はあ一はあ
業師の日記にまをせ直言(機)軸
と守るゆき一はゆきゆきゆき
十二神将の(ゆき)重代の武者あり
夜書物具といふ(ゆき)田(ゆき)も
まをゆき(ゆき)殿原の(ゆき)宮(ゆき)羅
大將 伐折(ゆき)羅(ゆき)大將
安底(ゆき)羅(ゆき)大將 願(ゆき)羅(ゆき)大將 珊

安底羅大將

額伽羅大將

珊

底羅大將

因達羅大將

波夷羅

大將 摩虎羅大將

真達羅大將

招杜羅大將

毗羯羅大將

時とはるまじ辰時の大おのれの頭と甲に

まろしーこのおのちおのこの頭と甲に

まておましくしたおと守りかおしーと

外フツの仏ブツ聖セイ隆リウ物の具クとくし或ハ通

花と持或ハ鏡キョウ珠ジュとりら或ハ下と結

或ハ合掌しそ日比の市持の物モノとる

うし其取の抜キハラ力チカラはそ仲智菜といふ

菜とぬにぬまつまのサシ籠カゴ甲カサとまマ孫ムコ吾ガ時

ま其矢にむとまされ共銀ギンいしイシのノた

我ガおのノ餘ヨのノ佛ブツは勝カチくク光ミツをヲはハらハらハ

物モノぬヌるル茶チャ師シ返ヘ踏フミえエ如ニ事コトといハふフ

名ナ付ツきキしシるルもモにニよヨひヒ阿ア弥ミ羅ラ刹シヤク鉄テツ

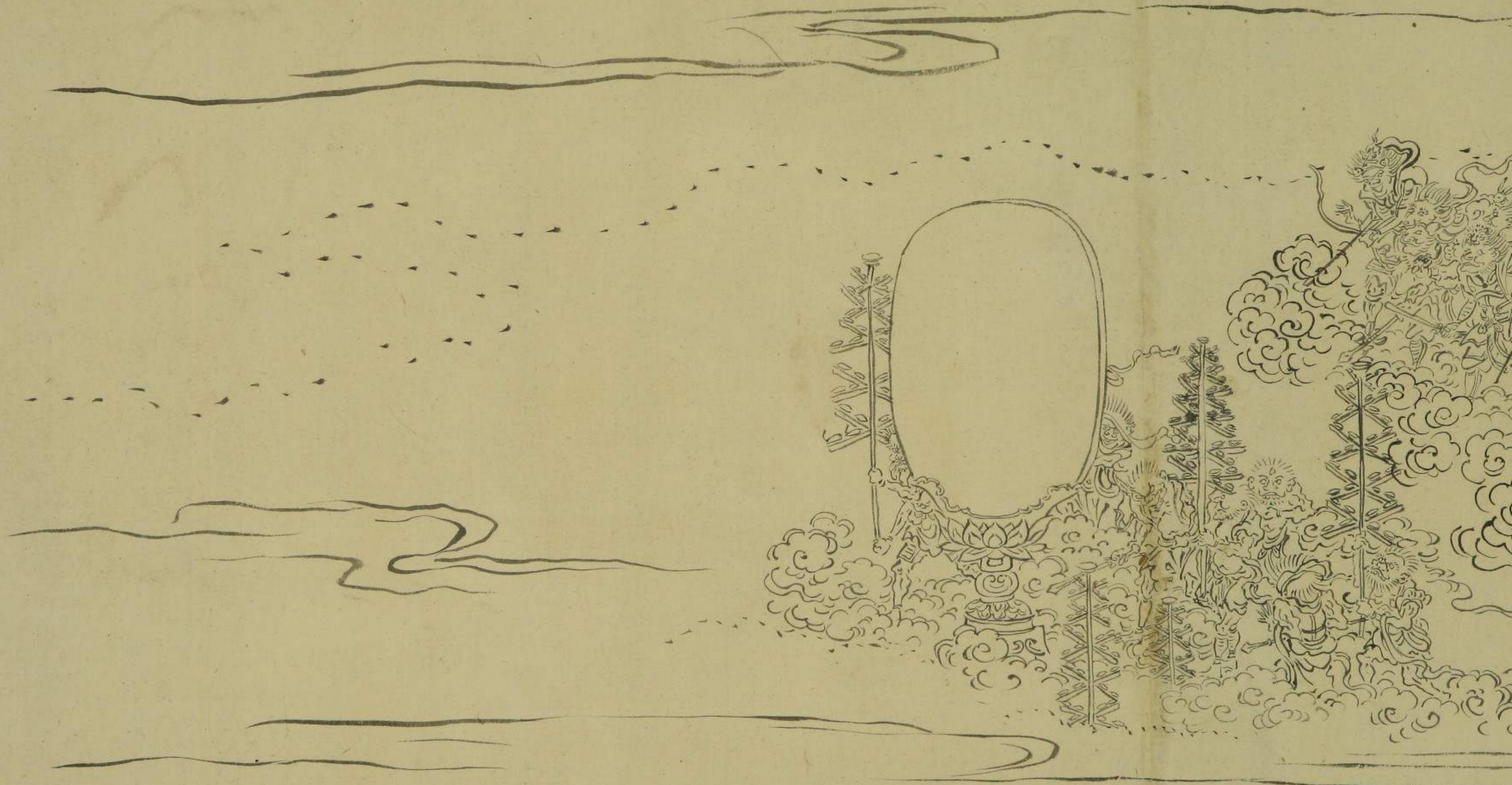
と七ナナ重シヅメしシくクかカずズ人ヒトにニらラ共ニ我ガゆユまマしシえエ

にニいハるル端ハタ光ミツとト云イハえエとトいハくクまマいハくクさサ

と七重とくかきしにら共我由のこえ
 にい海邊えと云えとつくまひいこさ
 しるえんに鉄の城の物ありし罪業
 此の生とし一人も余の御のこい
 りさるえん我浄土せあしんし
 信のちる信靴を好にけく色の幡
 とこしはく手高の甲十九人大匠候
 勢此猶とせく部敷書馬の八日
 此夜はゆれ燈とよひにこもし
 今夜の合然に勝るは回くれえ
 生にまふ河せし食水しせん
 とくしこれ大死とつあこせし
 心







北のりし一代教主釋迦牟尼
無上大薄伽梵菩薩
なつち是又よしのきよき娘
其故はついでに思はる是れ我れも其中に
悉くみよる今にまゝに諸業難
唯我一人能為救護云々
此生は皆我れ也
かき
一鹿鳥を殺し
鯉鮒と魚を食して毛を喰く
來りて地獄に落ちる
此の世の遠恨
此の世の苦痛

来りて地獄へいよいよ又半一の遠恨
ゆきし中百の大願もついでに生のかたは
我一人ゆき其地獄に廿入る四罪
業此輩一全二全あるを共くし
し中を淨ししとていふるに
況んや官共のしむるを本
し又も昔に後よあも中
摩伽陀國靈山淨土より
にまづ法を述べ過去現在未來
四向因果を賢聖住行向地の音
菩薩のよみよ一人とていふる
本願二門備はのまの菩薩
之より副將軍大聖文殊師子
王ににまづ清涼山に門を
にまづ家のみれ一かの珠劍
と抜心一かのサのさるる
大聖梵人佛陀眼目三昧か
切あまのるる優國大王の果

大聖梵人佛陀眼深三藏の如く
切多しとて電とる優國大王の果より
る善の愛の菩薩の白象王に奉^{カテ}り
二聖こそ大十國維刹と郎等に打供
して法花經中此執力にいとあるを
とる弥勒大聖神の菩薩陰四十九
重此摩尼殿都卒此内院をも公
由千騎の天衆と鳥等に打供
てしはいに多し物とて二國新
有此天王大衆一人とりれ此御友
にる信する釋提桓因二萬天子善
見城と立せくこえ天子曰大王
持飯の天皇の事にはあるとて大師新
迦如来ありしを此大将也
朱六天此魔王とて打しる人にも
んれしはあ事り仰れ此天子に
仰物りかると鐵の堤十二也射
通しにたひとあるれ大将や大白牛

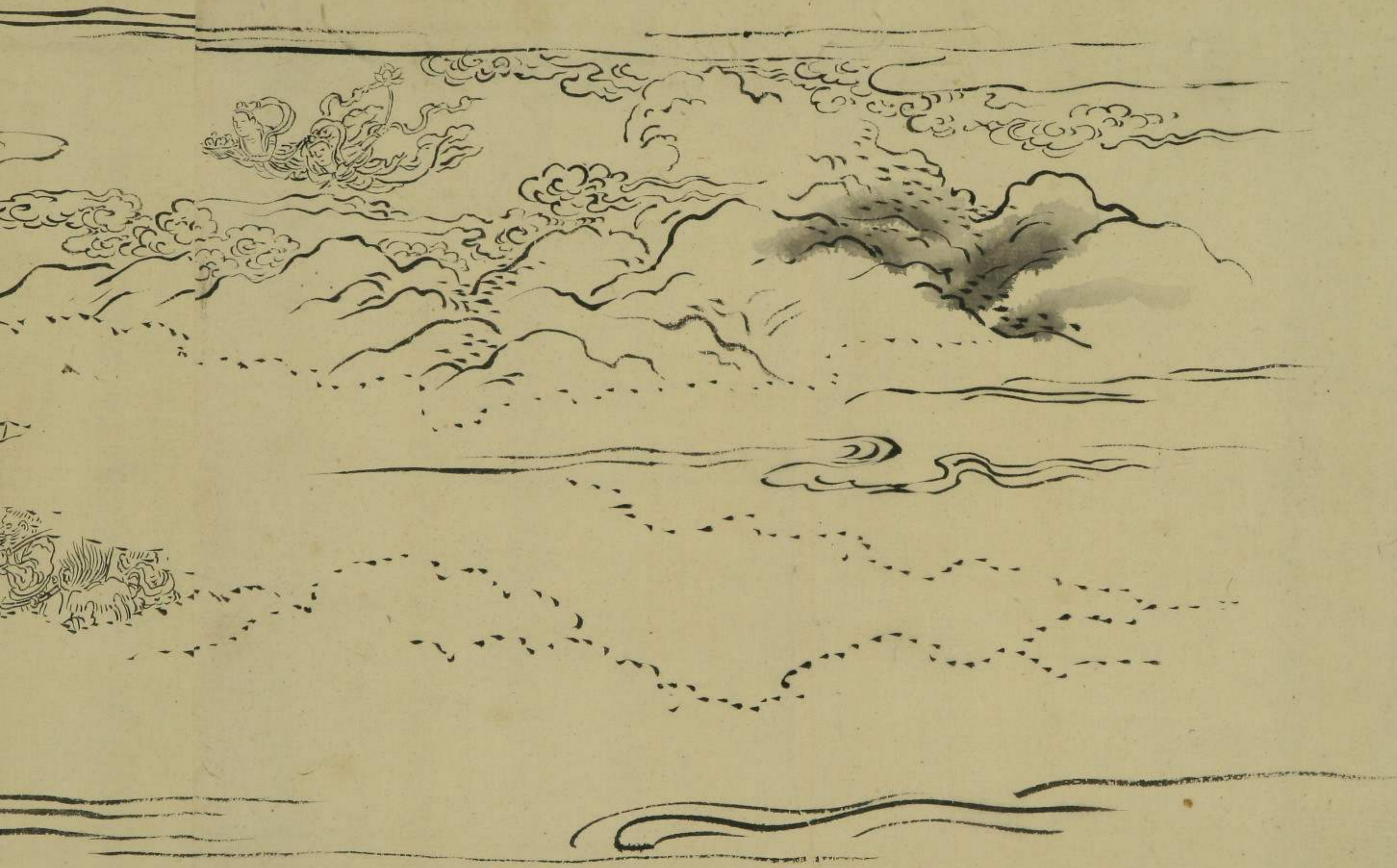
何物りかゝる鐵の堤十二也射
道——たゞひとあそび大將の大白牛
車と云車に乘りて亦作智の橋とつ
こしてそとに比喩のきたる道とせり
しるせば法華經の一之卷の如きを
才八の内題にける道——此文字より
武者に現しくはるの千二百八十騎
道ろうとせし假使道法界の斷善諸
眾生一同法花拈決定成善提し時
とばさるる馳せしる南方とて宝
生と云佛大將の道うけてよせたり
但け仏の常々あそびこころ武もあ
あはれこころ富貴者もあはれ——は佛
ハ徳人かて寶持はる中如意寶珠
とて珠と平等性智のほよ入くら
夫あそび共は玉といくツク磔ツクに山とて
獄中にならむとせしむるまに
いはぬとせし無執にくよせはると西

獄卒にふよとほせしむるに
はぬかといふ無執にふせはると西に
是しむししとく如意寶珠とゆ
それば寶珠又無盡恒河沙に本者
ゆしとを始にいつく多くて後に
二書に大勢あり成る事とる具後也
あつと攻もくろあつとる
獄卒の羅刹のいといふ人
佛のら直の地とあり人の貪欲を
人地をうんをむしりて欲の好
自業自得果に意法に大天とけ取に
まよて一人に阿防羅刹淨願智に鏡
と小楯にしむと十五束とるるせ
ぬれハ西に副將軍觀音左衛門心
厚の甲に餅といしりて十萬億
の國と過く極樂に東門のま板に
かせとあう射とくる新出生に菩薩
古とゆする人中つる出入とる六觀音
大将あり此様勒又此様持又善

古とゆきし人の中つら出入する六観音
大将のつら此様勅又此様持又善き
二十八部衆各千五百位とて一人
一々五百位末日馬の力かれ夜又此
打身とて大定知^悲此らに弘智彦
如海に觸^前とて一々廿二位に
あはら目にし見音はやさん大聖
代受吾れ大聖馬すう生田りと教い
寺ハ心とて一々廿二位に
副將軍のつら此様勅又此様持又善
見る人といふれ長といふ十由喜郎
こひら^中のつら此様勅又此様持又善
一々此様勅又此様持又善
母も同此様勅又此様持又善
さて此様勅又此様持又善
と西方のつら此様勅又此様持又善
重々に又といふれ長といふ十由喜郎
見く此様勅又此様持又善

重々に又とよめく落にと申是と
見く所防羅刹と矢前にころりし
れあといささる東のよたに日光
昔菩薩小將軍ゆか十一に神将鼻
とありておよとろろここれ木を
とお破りて運川ののこい道場も
し事北に、あまうす金とあも
多自由句れ念れとくは流しと
音覚菩薩文殊法花經とよにゆ
さしあといさるるかこころ二平
一味れ雨とろろ執鉄れ湯とさたに
ちにめと現と自由句れはらとれ岸
とよにへく吹とれ塵灰に礫カケと青
蓮花の種と成にさるしぬ共獄
今阿彌尊と心と倒さるるを
戦ふ南の敵、如意寶珠とけぬ
かしてらとれ、四維刹、甲カれ鐘と
けよとを授る事とる七の七夜合戦
あつまたにに勝負ある事とをいふ

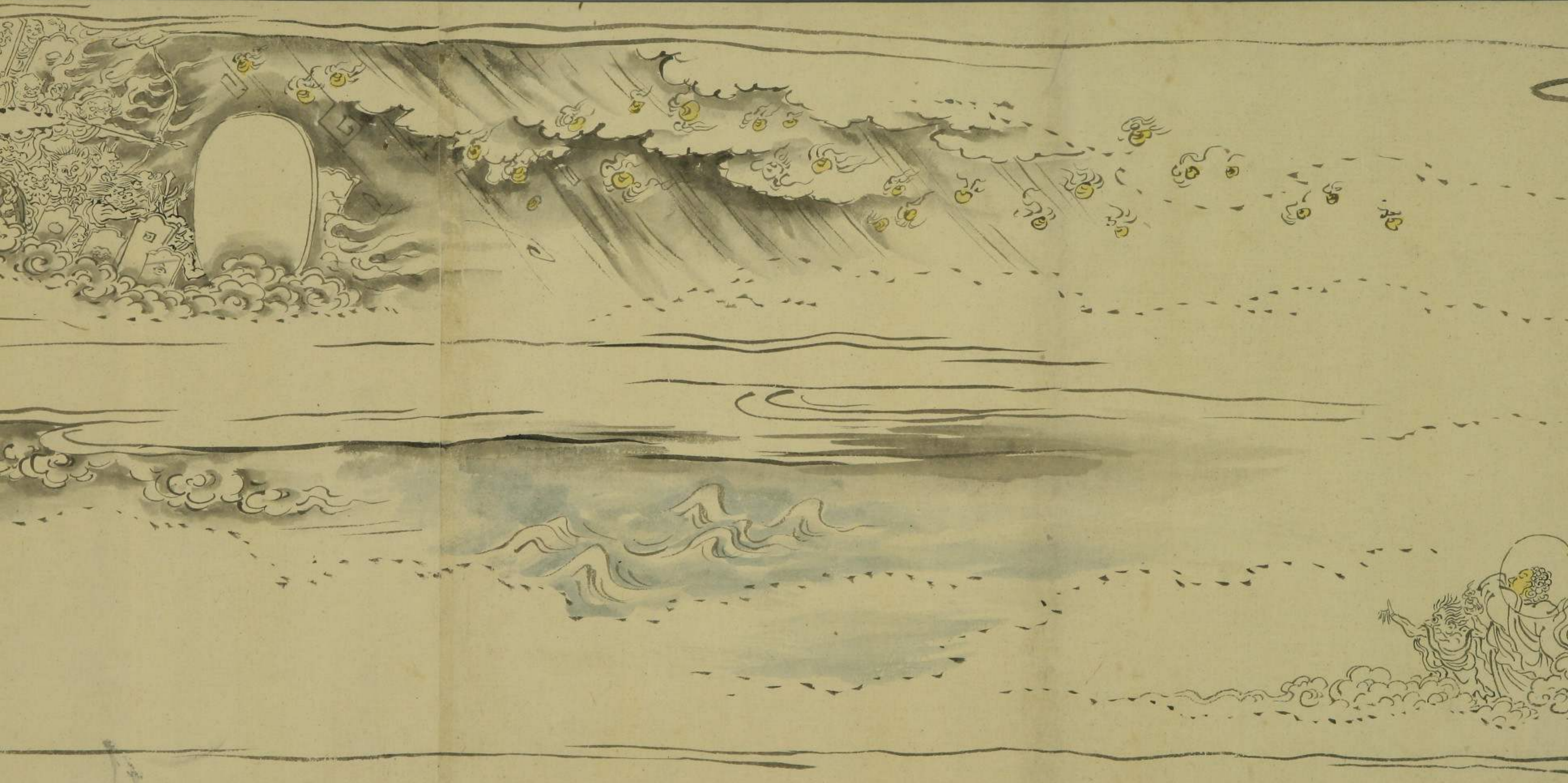
けしとを投る事なる七の七夜合致
あまにひに勝負ある事と重く
地獄のまに執事とせぬ活画と
事 又にもしる今に同傳

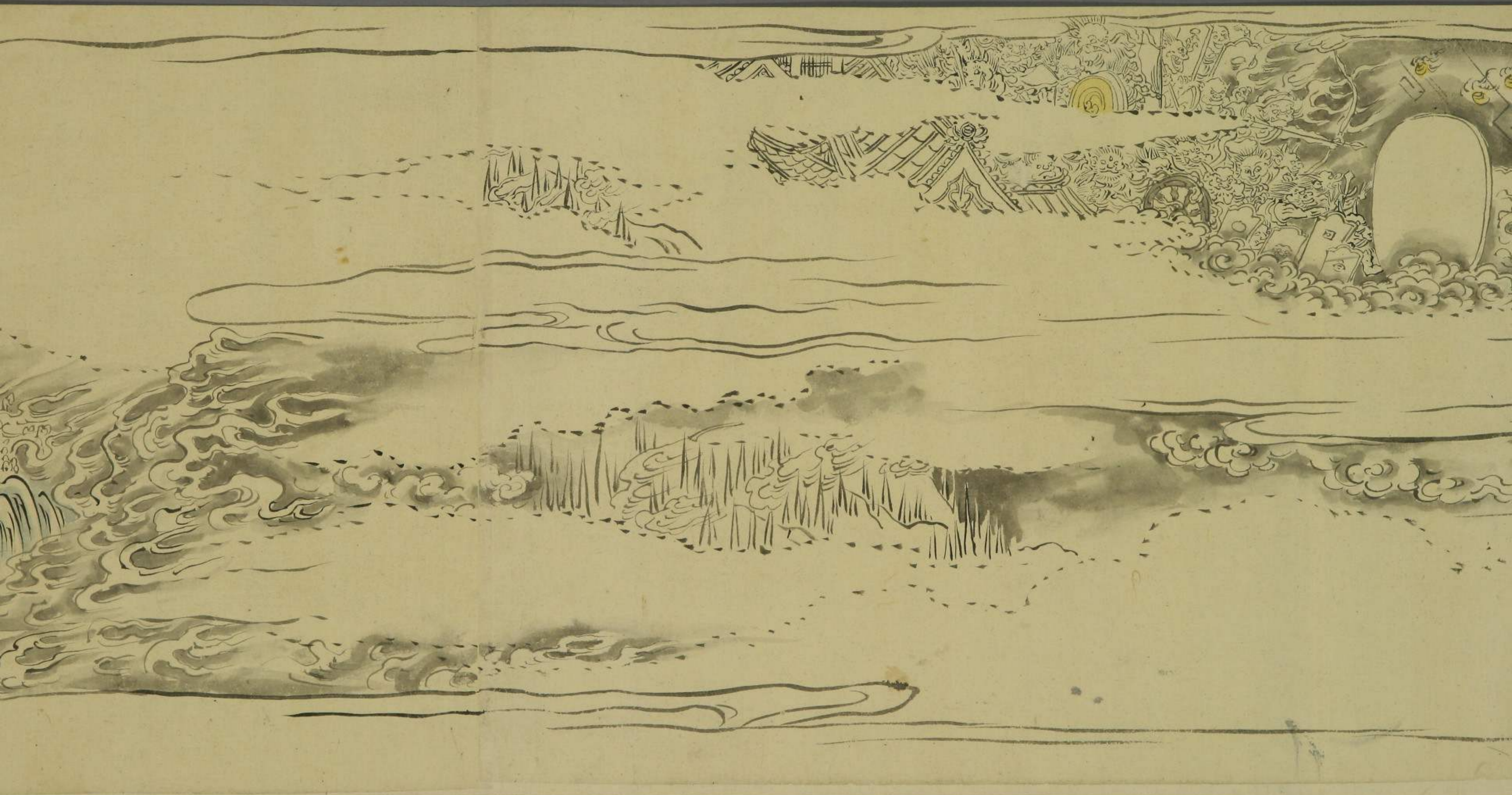


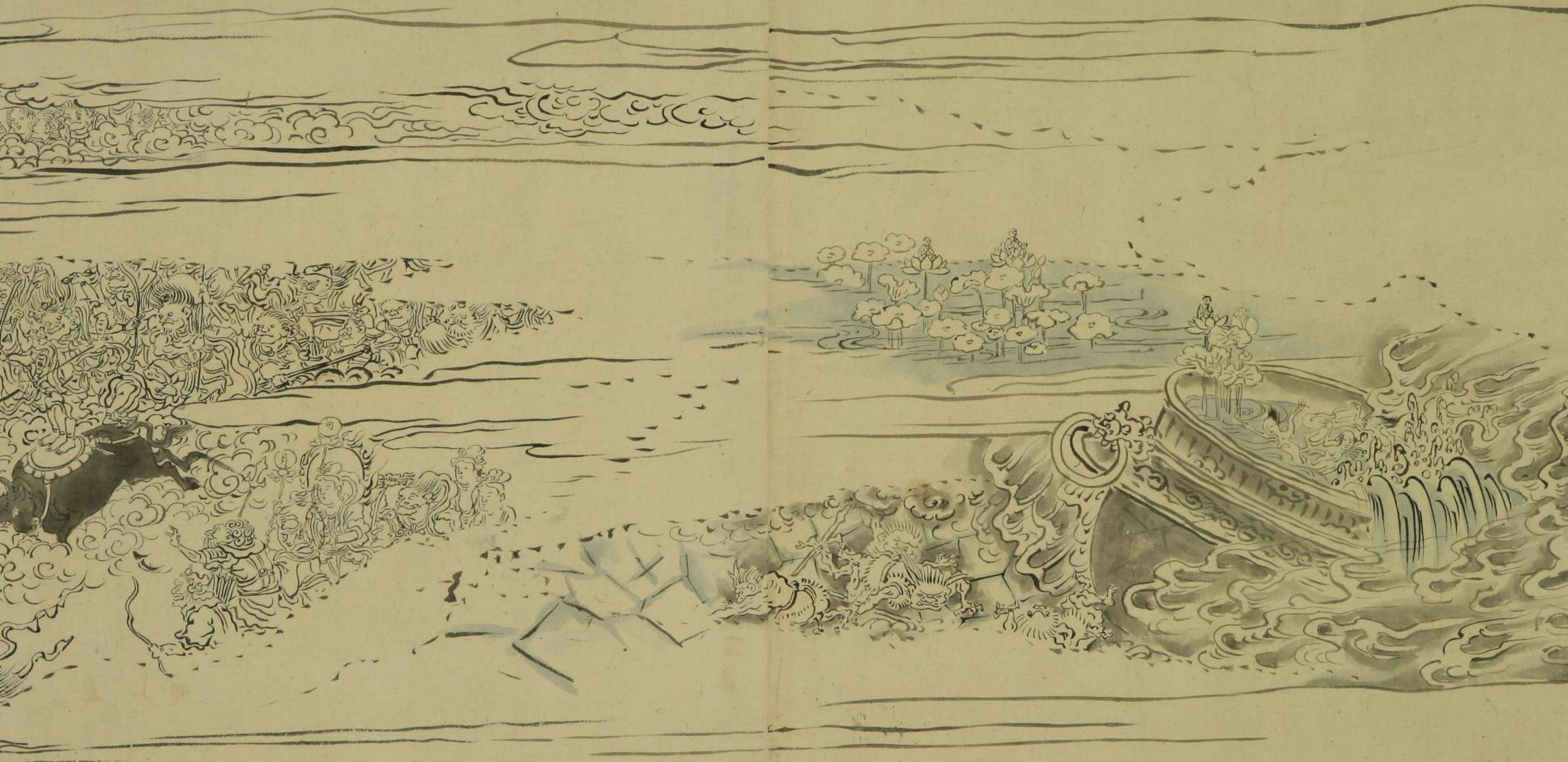


















三つおぼろの女

しづか

人ハ浄土に

まよひるる

法華經此の一字の
力に人ト佛ト

浄土はうらむ

浄土にうらむ

本えの法めせし佛にうらむ
あつと信とくといふ女
陀羅尼とくせくむ
今生に、諸佛甚く薩曼又陀
羅擁護とくくをみ
病とくけと祈知下領心に
来し、交らしと交國備とく
女諸共に五人愛敬めにあ
成佛の事よにむとく
比獄と極楽に
法とく金とく佛に
あつと人知者女とく
中しよ河川の事とく

しんじ比獄と極楽にさうし
法めとるるに佛にまへ
あやうし知者女にさうし
せしよ法門の事つこま
無智のり學おにさるし
同の法名といふ法ぬさ
とあつたけ合致状佛智
に叶るをさうし
あれ

願以此功德 普及於一切 我等與衆生 皆共成仙道



法泉禪窟什物



此合戰松久傳

叶

多可